



おとひめ

令和8年7月 日()



草刈りも悪くないかもしれない

山口小学校長 吉村 康介

先月、校地の草刈りをしていたとき、子どもたちから「ありがとうございます」と声をかけてもらったエピソードをこの欄で紹介しました。

今回も、草刈りをしている時のことです。誤解のないようにお伝えしておきますが、私は草刈りが趣味というわけではありませんし、草刈りばかりしているわけでもありません。ただ、こうしてときどき校舎の外に出て作業をしていると、校内とは少し違った、思いがけない出会いややりとりに巡り合うことがあります。それがうれしく、また紹介したくなるのです。

ある日、いつものように斜面の草刈りをし、少し休憩しようと思って座り込んでいた時のことです。目の前にあるJAの自販機で、地域の方が飲み物を買っておられました。その方は、

「今、教員住宅の周りの草刈りをしてきたところよ。校長先生もご苦労様。」と声をかけてくださいました。そのあと、しばらく何気ない会話を交わしました。別れ際、その方は「校長先生、水分をしっかり摂って、気をつけて作業しましょう。お互いにね。」と言い、去っていかれました。私には、この「お互いね」という言葉が不思議と心に残りました。地域のために汗を流しておられる方と、学校の環境整備をしている私、仕事は違っていても、まるで同じ職場の先輩や同僚が声を掛け合っているような、そんな温かい感覚を覚えたのです。

別の日のことです。斜面の草を刈り、刈った草を集めていた時のことです。刈った草は一輪車に積んで学校裏まで運ばなければならず、なかなか手間がかかります。その日は量が多く、全部運び終えるのに十往復ほどは必要かと思われました。半分ほど片付けた頃、またJA前の自販機で飲み物を買っておられる方がありました。よく見ると、元村長の加藤出さんでした。私が

「おはようございます。これから畑ですか。」と声をかけると、「これから上の畑に行くところよ。」と言われ、「校長先生も大変だな。都会の学校ならこんな土手もないだろうに。」と笑いながら、「この草、持って行ってやるわ。畑に入れるだけやで。」と言って、軽トラに積んでくださいました。何度も往復するつもりだった作業が、あっという間に終わってしまいました。昨年度の学校報をご覧になった方は覚えておられるかもしれませんが、加藤さんは昨年も、知らないうちに学校の草を片付けてくださったことがありました。また、加藤さんには外部講師として授業をさせていただくなど、様々な形で支えていただいております。本当にありがたいことです。

こうした出来事に会っていると、決して進んでやりたい作業というわけではありませんが、草刈りも悪くないものだなあと感じてきます。

学校は、米作りや畑づくり、五平餅づくりを教えてください方、社会科の授業で外部講師を務めてくださる方など、多くの地域の皆様に支えられています。また、先に紹介したような何気ない声かけも、学校にとっては大きな支えです。日ごろより子どもたちや学校のためにお力添えをいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

学校はまもなく夏休みを迎えます。子どもたちは学校を離れ、家庭や地域で過ごす時間が多くなります。引き続き温かく見守っていただけたら幸いです。